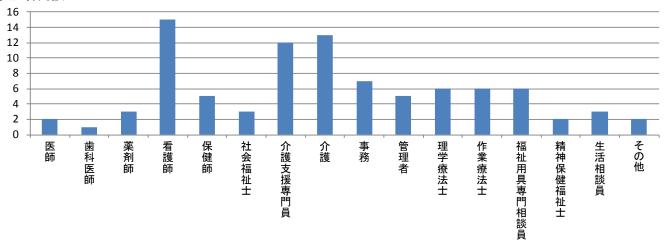
# 平成27年度認知症ケアパス普及研修会 アンケート結果

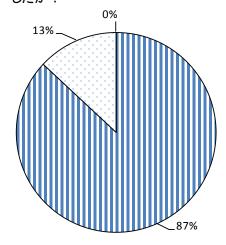
#### 参加者内訳

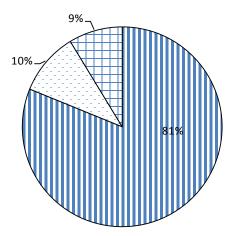


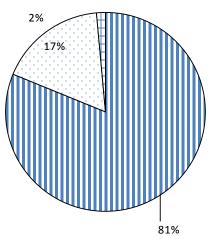
自分の考えを発表することが出来ましたか?

グループワークの時間は十分でしたか?

認知症の地域連携パス(新見版情報 共有書の認知症版)が必要だと思い ますか?







□はい □どちらともいえない □いいえ

研修会参加者数 91名 アンケート回答者 69名 回収率 76%

### Q5. 当地域が認知症になっても安心して暮らせる地域になるには何が大切だと思いますか?

- ・一般の方々が認知症についての理解を深め、協力して支えていけるようにする地域包括ケアが形になっていけたらいい
- ・地域の中でその人が認知症であることをオープンにできて、情報を共有できること
- ・認知症に対する理解、地域住民、多職種との連携
- ・家族も積極的に声掛け、近隣への理解
- ・小地域ごとの見守りの体制づくり
- ・地域やサービス関係者の情報共有は大切だと思います
- ・お互いが認知症を正しく理解すること
- ・認知症に理解を持つ方々が広く、多くなり専門職も多くなってほしい
- ・地域内での見守りと理解
- ・認知症の理解を深めて、多くの人が知る事で住み慣れた家で生活できる
- ・車を運転しなくても生活できること
- ・新見で確定診断がつくこと
- 内服のサポートが得られること
- ・認知症を隠さない国土
- ・足のない人への支援
- つながりが必要

- ・まわりのサポート、家族の協力が必要だと思います。また、家族を支える支援等、何があるか、相談できる場所が 必要だと思います
- ・地域コミュニティの維持(隣近所との関係)
- ・家族さんだけでなく、近所の方など、助けを求められる環境
- ・認知症に対する理解!!誰もがなりうる病気だということや、早期発見により進行が遅らせられることなど、子どものうちからの教育をすすめていく必要があると思います。偏見をなくすには、早期からの正しい知識と理解を
- ・やさしい気持ちで思いやりのある支援や関わりをしていれば、それでいいような気もします。
- サポートしてくれる機関が身近にあること
- ・医師、病院、市の情報共有
- ・財源、事業所の充実
- ・周囲の理解。いまだに認知症の理解がうすく、認知症であることを隠したり、家族が気づいていないことも多いので、地域だけの研修ではなく、色々な事業所でも若い人に認知症の講義をどんどんしてほしい。そうすれば見守りなどのサポート体制が整うと思う
- ・かかりつけ医、専門医、ケアマネ、事業所職員、行政、全ての専門職や支援者が地域住民の認知症ケアに対する責任感を持っておくこと。また、スキルアップをすること、地域住民や家族を変えて行ける関わりが出来ること
- ・認知症の方の家族かそれに代わる存在が身近にあること
- ・家族が言いにくい事を上手にいってくれる機関
- ・本人、家族以外の近隣住民の方々の知識のレベルアップ
- ・早期発見、早い手当で進行を抑制することを学ぶべきだと思う
- ・昔のような町内会活動、親睦(新見でも隣は何する人ぞ・・・となっている)
- ・民生委員、愛育委員、福祉委員のさらなる活躍
- ・皆が自分に置き換えて考えること
- ・認知症サポーターの普及
- ・当然のこととは思いますが、行政、医療、福祉、地域、本人とのつながりを途切れないようにする
- ・認知症の専門知識のある医師、認知症指導者より助言をもらうことで、新見市全体が認知症による理解を深めていく
- ・まずは楽しく知る事が必要だと思います
- ・家族の関わり方、地域に任せてしまわないこと
- ・専門職の連携、介入する人個人の力量ではなく、皆同じスキルでの介入が必要
- ・担い手(協力者)が必要
- ・みんなで見つめる目=地域で連携していくこと
- ・症状により相談できるレベルを考えていく
- ・サロンなどを活用して、子どもとのふれあいが出来る場もあればいいと思う
- ・介護、医療関係者などの活動の普及。一般の方々への周知
- ・外国には認知症のコミュニティーがあるそうですが、当面、施設があればよいのでしょうか?出火原因を作ってもいけませんし、大声、暴言などで近隣とトラブルを起こしてもいけませんので

#### Q6.講義の内容や、会議の企画・運営に対するご意見(グループワークの方法など)があればお書き下さい。

- ・今回自己紹介の方法がとても良かったと思います。この場でないと会わない人の方が圧倒的に多いので、顔見知りになることで、連携につなげていけるかな~と思います
- ・特になし。話しやすくとても良い雰囲気でした。今後も参加したいです
- ・色々な職種の方と話が出来てとても楽しくできた。運営、企画をされる方は大変だと思いますが、内容問わずもっと会議を行ってほしい
- とても良かったと思います
- ・認知症は大きな問題です。今後も協議が必要です
- ・具体的な事例を用いてみんなで考えるグループワークをしたい
- ・全員発言をしていただき、楽しいグループワークとなりました
- ・時間の短縮化(60~100分程度でお願いします)
- ・K J 法では意見は出るが、問題が解決しないのでは?
- ・時間は限られるが、もう少しグループワークの時間が多ければ良いと思った
- ・今日はグループワークの時間が十分にあったので、話が良くできたと思う。認知症ケアパスの会議は2回目なので、 続けて参加しないと分かりにくいと思った。

## 平成 27 年度岡山県医療介護総合確保基金事業 認知症ケアに係る医療連携体制整備事業

- 名札を首にかけるタイプにして頂けたらと思います。
- ・講義は分かりやすく、聞くことができ、理解出来ました
- ・医師、施設関係者による症例を聞きたい
- ・グループワークの時には役割分担をする際は、くじ引きやあみだくじで、誰もが役割を担えるようになれば、参加 者全員のスキルアップにつながりいいのではと思います。
- ・連携方法としては、Z連携を実際に使ってみる機会があれば敷居も低くなる
- ・もう少しグループワークの時間があればいいと思いました。他職種の情報がきけて大変役にたちました
- ・日々の業務で認知症の人に接して困った事例から、どういうルートで対処したかなど、身近な事から話して様々な 業種に結びつけていけば活発な意見がで、解決策も浮き上がってくるのではと思います。

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました。